

2015年9月19日(土) - 11月23日(月・祝)

PAUL KLEE

Spuren des Lächelns

パウル・クレール

だれにもないしょ。

クレール愛蔵の「特別クラス」40点が大集結



4. 《洋梨礼讃》1939年
個人蔵（スイス）、パウル・クレール・センター（ベルン）寄託
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

パウル・クレー だれにもないしょ。

PAUL KLEE Spuren des Lächelns

展覧会概要

どこまでも謎めいていること―。スイス出身のパウル・クレー(1879-1940)ほど、「秘密」を愛した近現代の画家はいないといっても過言ではないでしょう。パズルのピースを思わせる断片的な作品の姿は、それらがつながったときに現れるであろう全体や、どこかたわいない遊びを感じさせます。

近年の研究により、例えば作品の下塗りの層や裏側に、もうひとつ別のイメージを意図的に「埋蔵」するなど、この画家が仕掛けた密やかな暗号の全貌が、明らかになりつつあります。

クレーは日本でも高い人気があり、これまでも充実した個展が開催されてきました。それらの成果を踏まえ、本展ではクレーが何を描き、どうスタイルを展開させ、どのような手順で作品を作ったかという紹介をするとともに、クレーの謎を正面から考えます。キーワードは「秘密」。謎解きだけではなく、常にミステリアスな気配をまとうクレーの思考と感性に分け入ることも目指します。そのため本展では、時系列ではなく、6つのテーマで構成します。

質・量ともに、クレー作品の重要なコレクションを擁するベルンのパウル・クレー・センターおよび遺族コレクションの全面的な協力を得て、日本初公開31点、国内のコレクションを含む110点あまりを展示。親しげで深いクレーの世界を通じ、見る人それぞれが心に秘めた原景を呼びさまされる、得がたい機会となることでしょう。



1. 《彼女は呟え、僕らは遊ぶ》1928年
パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

会期

2015年9月19日(土)―11月23日(月・祝)

休館日：月曜日、9月24日(木)、10月13日(火)

*ただし9月21日、10月12日、11月23日は開館

開館時間：午前10時～午後6時

*金・土曜日は夜間開館(午後8時まで)

*入場は閉館の30分前まで

会場：兵庫県立美術館 企画展示室

主催：兵庫県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

後援：スイス大使館、公益財団法人伊藤文化財団、兵庫県、

兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会

特別協賛：大日本印刷

協賛：ライオン、清水建設、損保ジャパン日本興亜、きんでん、

非破壊検査、一般財団法人みなど銀行文化振興財団

協力：パウル・クレー・センター（ベルン）

パウル・クレーズ・エステート（ベルン）

スイス インターナショナル エアラインズ

ホテルオークラ 神戸、株式会社フェリンモ

企画協力：DNPアートコミュニケーションズ

観覧料

一般1,400(1,200)円、大学生1,000(800)円、

高校生・65歳以上700(600)円、中学生以下無料

*（ ）内は、前売および20名以上の団体割引料金

(高校生・65歳以上は前売なし)

*障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額

(65歳以上を除く)

*割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中に美術館窓口で入場券をお買い求めください。

*県美プレミアム展の観覧には別途観覧料金が必要です。

(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)

*クールスポット期間7月1日(水)から9月30日(水)までに本展ご観覧の方に、12月8日からの特別展「ジョルジョ・モランディ展」の特別招待券を進呈。

*前売券の販売は7月19日(日)から9月18日(金)まで。

会期中は販売しません。

*主なチケット販売場所：ローソン(Lコード：57824)、チケットぴあ(Pコード：766-967)、セブンチケット、イープラス、CNプレイガイドほか。

*詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

本展のみどころ

- ◇日本初公開31点を含む94点がクレーの故郷ベルンより来日。国内作品とあわせて、110点あまりを展示します。
- ◇クレー自身が「特別クラス」とランク付け、例外的に高値を付けたり、非売とした愛蔵作品40点が集結します。
- ◇表裏に描き、内容的にも関連づけたとされる作品を両面が見えるように展示。
また、画中に“隠しイメージ”が埋め込まれた作品を紹介し、クレーの隠す手法に光を当てます。
- ◇「秘密」の世界に通じた存在としての子ども、奇妙な動物や天使を描いた作品も数多く出品されます。

2.



両面作品

3.



2. 《無題 [子どもと凧]》1940年頃
パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

3. 《無題 [花と蛇]》1940年頃
パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

*2、3は表裏に制作

作家紹介

パウル・クレー (1879-1940)

20世紀を代表する画家のひとり、パウル・クレーは1879年、ベルン近郊ミュンヘンブーフゼーに生まれた。父はドイツ人の音楽教師、母はスイス人の声楽家という家庭に育つ。音楽は生涯にわたり、クレーの創作の大きな糧となった。1900年、ミュンヘン美術アカデミー入学。画家として出発した当初は、鋭く辛辣な線描による風刺的な表現が重要な役割を果たした。それは次第に、自分自身を皮肉のような独特の可笑しみに深められていく。1906年にはピアニストのリリー・シュトゥンプフと結婚し、翌年、息子フェリックスが生まれる。この時期にはリリーが生計を支え、クレーが主に育児を担った。1911年にミュンヘンの前衛グループ「青騎士」が旗揚げされるとその活動に加わり、翌年の第2回展に出品。この頃、子どもの絵や未開芸術への関心を深めたが、それは「青騎士」の問題意識とも呼応するものだった。1912年、パリにドローネーを訪ねた後、1914年のチュニジア旅行を象徴的な転機として、色彩を純粋に、運動と浸透の感覚をもって組織する術を体得。以後、ゆるやかな解体の契機をはらんだ画面分節は、クレーの主要な造形的関心事となる。1916年に徴兵され、ドイツ兵として第一次大戦に従軍。この間に画家への評価は高まっていった。戦後の1920年は彼のキャリアの画期となり、最初の大規模な回顧展、最初のモノグラフ2種の刊行、造形学校バウハウスへの招聘といった出来事が相次ぐ。1925年、画廊との契約解消により、クレーは自作の価格を等級づけて管理するようになる。1931年、バウハウスを辞してデュッセルドルフ美術アカデミー教授に就任するも、1933年、ナチスの政権掌握に伴い解雇。ベルンへ亡命する。晩年には主に、破壊された記号のような線が画面に散らばる独自の様式を展開するとともに、単純で遊び心に満ちた素描に比類のない境地を示した。1940年、ロカルノ近郊ムラルトで死去。

展覧会構成

第1章 何のたどえ？ Klee, allegorisch

「矢印」や「フェルマータ」など、クレーは記号的なモチーフを絵の中に繰り返し描きました。それは、クレーの作品世界を特徴づける重要な鍵となっています。記号の向きが変われば意味も変わり、用いられる場面によって異なった働きをするなど、「クレー・コード」と呼ぶうる、記号と比喩の世界を読み解きます。

4.



5.



4. 《洋梨礼讃》1939年 個人蔵（スイス）、
パウル・クレー・センター（ベルン）寄託
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

5. 《上昇》1925年 宇都宮美術館蔵

ポリフォニー

第2章 多声楽 一複数であること Klee, polyphon

複数のモチーフが絡み合いながら、一体化したり、枝分かれしたり、形状が揺れ動きながら変化していくさまは、クレーの絵画によく見られる特徴です。それにより、クレーはひとつの存在に重なる複数の要素の可能性を示唆しています。

6.



7.



6. 《赤のフーガ》1921年
個人蔵（スイス）、
パウル・クレー・センター（ベルン）寄託
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

7. 《双生の場所》1929年
パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

第3章 デモーニッシュな童話劇 Klee, dämonisch

自分は「死者とまだ生まれざる者たち」のもとに住むというクレー。彼の作品は、時として、魔的でどこか童話風な世界に、私たちを引き込みます。この章では、そういった作品を紹介すると同時に、クレーにとってモダンな抽象表現だった「グリッド（格子）」の誕生にも、こうしたデモーニッシュな作品が深く関わっていることを紹介します。

8.



9.



8. 《窓のあるコンポジション》1919年
 パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

9. 《小道具の静物》1924年
 パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

第4章 透明な迷路、解かれる格子 Klee, kristallen

基本単位の繰り返しによって画面を明晰に秩序づけながら、そこに解体や揺らぎの要素を忍び込ませることは、クレーに一貫して認められる制作の姿勢です。また、単位を繰り返しながら、そこに変則性をもたせることで、だまし絵のような迷宮的空間を生み出すことも、クレーは得意としていました。知的な作業の果てにほどけていく世界、迷宮化する空間に、クレーの「秘密」のありかを探ります。

10.



11.



10. 《柵の中のワラジムシ》1940年
 パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

11. 《透視—遠近法的な》1921年
 個人蔵（スイス）
 パウル・クレー・センター（ベルン）寄託
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

第5章 中間世界の子どもたち Klee, wieder-kindlich

「来ることができ、来たいと思っているが、しかし来る必要のない者の国」——。

クレーのいう「中間の世界」に住みつく者の代表格が、子どもたちです。あるときは世捨て人として、あるときは屈託のない使者として登場するクレーの子どもたちが集います。

12.



13.



12. 《子どもの胸像》1933年
 パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

13. 《異国の寺院の少女》1939年
 パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

第6章 愚か者の助力 Klee, selbstironisch und freundlich

人に似た、しかし、おそらく人ではない戯画的な存在や、ときに種を特定しがたい奇妙な動物。そして、不完全な天使たち。それらは私たちに何を伝えようとしているのでしょうか？ クレー作品の「可笑しみ」を象徴するこうした存在を、風刺を画業の出発点としたクレーが、その鋭さをいかに純化していったかという観点から見つめます。

14.



15.



14. 《魔が憑く》1939年
 パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

15. 《むしろ鳥》1939年
 パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

関連事業

記念講演会

① 「転義する個人言語 ―パウル・クレーの詩学」

9月20日(日) 午後2時～(約90分)

講師：石川潤氏(宇都宮美術館学芸員／本展企画者)

ミュージアムホールにて 聴講無料(定員先着230名・要観覧券)

② 「自然に＜触れる＞絵画 ―パウル・クレーのイメージ・コード」

10月18日(日) 午後2時～(約90分)

講師：前田富士男氏(中部大学客員教授)

ミュージアムホールにて 聴講無料(定員先着230名・要観覧券)

学芸員による解説会

9月26日(土)、10月10日(土)、11月7日(土)、11月21日(土)

午後4時～(約45分)

レクチャールームにて 聴講無料(定員100名)

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日 午前11時～(約15分)

レクチャールームにて 聴講無料(定員100名)

こどものイベント

「こども鑑賞ツアー」

10月24日(土) 午後1時30分～午後3時

企画展示室及びアトリエ2にて

参加費：100円(定員20名)

対象：小・中学生とその保護者(*高校生以上は別途観覧料が必要)

要事前申込：こどものイベント係 TEL078-262-0908

ワークショップ

「パウル・クレーに挑戦!～脳がめざめるアート体験～」

10月11日(日)、11月1日(日)

各日 午前10時～、午後1時～、午後4時～(各回約60分)

企画展示室及びアトリエ2にて

参加費：500円(定員各回50名、応募者多数の場合は抽選)

対象：幼稚園～大人

(*小学2年生以下は保護者の同伴をお願いします)

(*高校生以上は別途観覧料が必要)

要事前申込：往復葉書にて(詳細はHPをご覧ください)

申込締切：9月29日(10月11日開催分)

10月20日(11月1日開催分)(必着)

お問合せ：教育支援・事業グループ TEL078-262-0908

協力：株式会社フェリシモ

*詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 [HAT神戸内]

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

企画内容に関すること

担当学芸員: 河田亜也子、相良周作

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

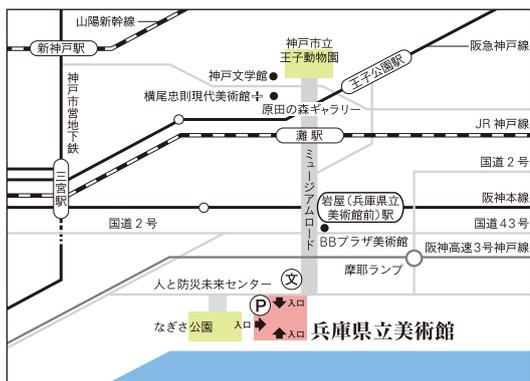
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

J R三ノ宮駅南から神戸市バス(29・101系統)・阪神バスにて約15分 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場(乗用車80台収容・有料)

*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



同時開催の展覧会

神戸ビエンナーレ2015 ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム

9月19日(土)ー11月23日(月・祝)

会場: 兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階

チャンネル6 国谷隆志展 Deep Projection

10月29日(木)ー11月29日(日)

会場: 兵庫県立美術館 アトリエ1

県美プレミアム

〈小企画〉 美術の中のかたちー手で見る造形

手塚愛子展 Stardust Lettersー星々の文(ふみ)

〈特集展示〉 VS(ヴァーサス)ーコレクション新旧対決!?

7月18日(土)ー11月8日(日)

〈小企画〉 谷中安規展(仮題)

〈特集展示〉 館蔵版画名品選(仮題)

11月21日(土)ー2016年3月6日(日)

会場: 兵庫県立美術館 常設展示室

横尾忠則現代美術館での同時開催*

横尾忠則 続・Y字路

8月8日(土)ー11月23日(月・祝)

*特別展又は県美プレミアムのチケット(半券可)のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。

(詳細はホームページなどをご覧ください)

広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 電話(078)262-0905(直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ(.jpg)をお送りいたします。

番号	作品名・制作年・所蔵 等
1	《彼女は吠え、僕らは遊ぶ》1928年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
2	《無題[子どもと風]》1940年頃 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
3	《無題[花と蛇]》1940年頃 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom 表裏に制作 *表裏のため原則として2点セットで使用し、「表裏に制作」と注記してください。 *3のみ掲載希望の場合は、作品名に続いて「《無題(子どもと風)》1940年頃の裏面」と注記してください。
4	《洋梨礼讃》1939年 個人蔵(スイス)、パウル・クレー・センター(ベルン)寄託 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
5	《上昇》1925年 宇都宮美術館蔵
6	《赤のフーガ》1921年 個人蔵(スイス)、パウル・クレー・センター(ベルン)寄託 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
7	《双生の場所》1929年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
8	《窓のあるコンポジション》1919年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
9	《小道具の静物》1924年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
10	《柵の中のワラジムシ》1940年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
11	《透視—遠近法的な》1921年 個人蔵(スイス)、パウル・クレー・センター(ベルン)寄託 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
12	《子どもの胸像》1933年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
13	《異国の寺院の少女》1939年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
14	《魔が憑く》1939年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom
15	《むしろ鳥》1939年 パウル・クレー・センター(ベルン)蔵 ©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の**作品名・制作年・所蔵・クレジット**(5番以外)を必ず入れてください。

※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。(会期終了まで)

※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

※Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。

※基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で営業・広報グループまでお送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ	『	』
	TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大5組10名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)		組	名分希望

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)、URLなどを、上記営業・広報宛にお送り願います。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。